

特別展 明治維新150年記念事業

みと歴史探訪

— 明治・大正期の水戸を行く —

市内を走る水浜電車(大正末期)

ハッピー ウィークエンド

会期中の土日に関り、
高校生以下の子どもと一緒に
ご来館の大人は、子ども1名につき
大人1名**無料**になります。



第19代横綱・常陸山

平成30年 10月20日(土)～11月25日(日)

午前9時30分～午後4時45分(月曜休館)

水戸市立博物館

水戸市大町3-3-20
Tel.029-226-6521



入場料

一般 **200円**(20名以上の団体は**150円**)

高校生以下、65歳以上、障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者と付き添い1名は無料 その他各種割引あり

関連行事

★みと歴史講座★ 視聴覚室 定員**50名 無料**

10月21日(日)9:00から電話受付(029-226-6521)

10月27日(土) 13:30～15:00

「石河明善と弘道館」

講師 水戸史学会会長 宮田 正彦 氏
水戸市文化財保護審議会委員

11月24日(土) 13:30～15:00

「石河明善日記に見る明治維新」

講師 茨城地方史研究会会長 久信田 喜一 氏

特別展

みと歴史探訪

—明治・大正期の水戸を行く—



今から150年前、約270年におよぶ江戸幕府が終焉を迎え、新しい時代のページが開かれました。西洋の文化が押し寄せ、日本は政治の仕組みや制度に近代化を迫られました。

近代化が進む中で、水戸はどのように変化を遂げてきたのでしょうか。明治・大正期の水戸の町を、写真や資料とともに散策してみましょう。

新しい時代の幕開けに、偕楽園からクジラが?!

明治元年(1868)に、偕楽園の斜面から中新世中期(今から1200~1400万年前)のマッコウクジラのなかまの下顎の右の歯の化石が発見されました。この発見によって、はるか昔には水戸の周辺が海の底であったことがわかります。

クジラの歯の化石(レプリカ)



水戸駅—近代化の超目玉は鉄道だ!



二代目水戸駅

水戸駅は、明治22年(1889)、水戸鉄道の敷設に伴い開業しました。二代目となるこの駅舎は、激増した客貨に対応するために新築されたものです。2階建ての正面中央や、尾根窓・棟飾り・破風飾りなどの装飾、尾根の勾配によって、優美な雰囲気醸しだしていて、意匠的にも優れたものでした。明治40年(1907)に建てられた札幌駅のモデルとなったともいわれています。設計者は不明です。残念なことに、原因不明の出火によって、大正3年(1914)に全焼してしまいました。

茨城県立商業学校 まるでベルサイユ宮殿!!

近代教育制度は、明治20年(1887)頃から大正5年(1916)頃に整備が進み、中等教育の充実もはかられました。男子の高等普通教育(中学校)、女子の高等普通教育(高等女学校)、実業教育(実業学校)の3系統です。茨城県立商業学校は明治35年(1902)の創立。柳小路(現・新莊3丁目)に、まるで「ベルサイユ宮殿」と称された瀟洒な洋風建築の本館が完成したのは明治37年(1904)でした。設計は茨城県技師だった駒杵謹治。東京帝国大学で、東京駅を設計した辰野金吾の教えを受けた建築家です。



茨城県立商業学校本館

明治元年水戸生まれ、近代日本画の大家横山大観



横山大観画「水温む」 昭和29年(1954)

日本画家・横山大観(1868~1958)は、水戸の下市三ノ町(現:城東2丁目)の出身です。新しい日本画を探究し、輪郭線をぼかした描法(「朦朧体」)や大胆な構図・筆遣いによる作品を描き、色鮮やかな作品のほか、水墨画も数多く描きました。

「水温む」は、山深い溪谷の風景を描いた水墨画です。険しい岩山の間を水が豊かに流れ、小さな魚も飛び跳ね、水温む春の空気が漂います。晩年の大観の貫禄ある作品です。

